

7月定例会 ボランティア×ファシリテーション

今回はファシリテーションを通してボランティアを語る。ボランティアに精通している人も、ボランティアに興味はあるけど迷っている人も、ボランティアにかかわったことのない人も場に参加。

冒頭に、ボランティアコーディネーターでもある鈴木智恵子さん(SFC 副代表)が「ボランティアの現場」と題し、情報提供をしました。

対話を進める中で「そもそもボランティアって何?」という根本に立ち戻り考える機会になりました。

参加者からは、「有償、無償、奉仕、プロボノの違い」「ボランティアは自発的、主体的であることが前提」「自分からやることで気持ちが乗り、誰かからの指示でやらされるのは違和感がある」「支援しているようで実は体験、繋がり、出会い、ネットワーク、達成感、充実感など自分のメリットも大きい」との声も聞かえてきました。ボランティアをしている実践者の経験談を聞くことで、知見共有の場ともなりました。



SFC NEWS



2018 夏号

佐賀ファシリテーションカフェ定例会などの活動について、年 4 回ニュースレターを発行します

8月定例会 「ファシリテーションよもやま話」



8月定例会は日本ファシリテーション協会会長、ラティエノ(平井雅)さんをゲストに迎えてファシリテーションのあれこれについて語り合いました。ラティエノがファシリテーターとして関わっている「生の現場」。具体的な事例を紹介して頂きながら、ファシリテーションとは、ファシリテーターの在り方は・・・ということについてじっくり考える、深い場になりました。

「ファシリテーションは一生かかって学ぶもの」

「高めたものを持ち帰って使う。現場でどう生かすかが大事」

ラティエノの一言ひとことに深くならず、その内容が沁みる時間。参加者からは空気があたたかくなった、身近でスツと入ってくる内容だった、納得！子育てにも通じるという感想が聞かれました。また、茶話会では質問が次々に飛び出し、参加者の熱中度(満足度)が感じられました。



9月定例会 「共感的対話～分かり合えちゃう予感～」



9月定例会は SFC 最高の 33 人が参加！初めて参加の方も 9 人。新しい出会いの会となりました。最初にグラウンドルールの確認。質問や付け加えの意見が出ることで共感できる「みんなのルール」になりました。言葉をどんどん発する事でそれぞれが共感し、みんなが笑顔に。

傾聴→言葉の発信→傾聴→共感→笑顔・・・そんな流れを感じられる時間となりました。今回は「共感的対話」がメインテーマ。「中学生が学校にスマホを持っていくこと」の是非について話し合いました。

参加者からは相反する意見であったが、相手の気持ちになって確認することで、大切にしていたことはお互いに同じだということに気づいた時に小さな驚きがあった・・・という感想がでていました。

